

中高一貫教育の成果と課題

H19.9.7 高校教育課

1. 導入の理念

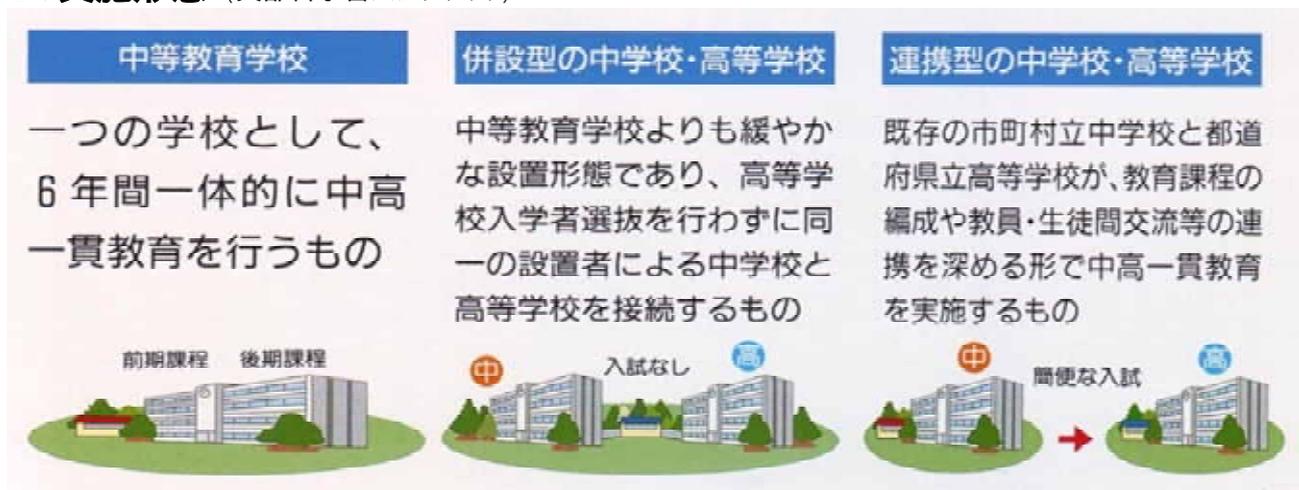
(1) 中高一貫教育の主たる利点 (H9 中央教育審議会答申)

- 高等学校入学者選抜の影響を受けずに「ゆとり」のある安定的な学校生活。
- 6年間の計画的・継続的な教育指導が展開でき効果的な一貫した教育。
- 6年間にわたり生徒を継続的に把握することにより生徒の個性伸長、優れた才能の発見。
- 異年齢集団による活動が行えることにより、社会性や豊かな人間性を育成。

(2) 中高一貫教育導入の基本的な考え方 (H11 教育改革プログラム)

中等教育の一層の多様化を促進し、生徒一人一人の個性をより重視した教育を実現するため、中高一貫教育を選択的に導入する。今後、生徒や保護者にとって実質的に選択が可能となるよう、中高一貫教育校が高等学校の通学範囲(全国で500程度)に少なくとも1校整備されることを目標に整備。

2. 実施形態 (文部科学省パンフレット)



3. 本県の中高一貫教育 (= 連携型) について

(1) 「本県における中高一貫教育のあり方について」(H12本県中高一貫教育研究会議報告)

- 本県の中高一貫教育がめざすもの
 - 様々な社会の変化や要請に対応できる人材の育成
(例: ふるさと教育、福祉教育、環境教育)
 - 特色ある学校、魅力と活力ある学校づくりの推進
(例: 興味・関心に応じた学習、基礎基本の定着)
 - 新学習指導要領の趣旨を生かす
(例: 「ゆとり」の中で「生きる力」を育成)

(2) 本県の中高一貫教育校

地区	高等学校	実施形態	中学校	導入年度
飯南地域	飯南高等学校	連携型	赤来町立赤来中学校 頼原町立頼原中学校	平成13年度～
吉賀地域	吉賀高等学校	連携型	吉賀町立吉賀中学校	平成13年度～
			吉賀町立六日市中学校 吉賀町立蔵木中学校	平成15年度～
			吉賀町立柿木中学校	平成18年度～
邑智地域	邑智高等学校	連携型	邑智町立邑智中学校	平成14年度～ (平成17年度終了)

(3) 具体的な活動内容

中学校と高校が連携してTT授業や学力テスト等を行った。

ア TT授業及び習熟度別授業

イ 中学生対象学力テスト及びそれについての学力分析

ウ 長期休業中の合同勉強合宿、合同勉強会等

中学校と高校の生徒が交流して生徒会活動や部活動等を行った。

ア 生徒会活動、学校行事等の交流(地域清掃奉仕、ロードレース、文化祭等)

イ 部活動の合同練習会、合同発表会等

中学校と高校、あるいは連携中学校間の教師の交流を行った。

合同職員会議、合同教科会、専門部会等

中学校と高校が連携して地域を主題とした学習を行った。

ア 総合的な学習の時間を活用した郷土学習

(中学校「ふるさと学習」「チャレンジアワー」等、高校「よしか学」等)

イ 教科の授業(河川の水質調査、地域巡検等)

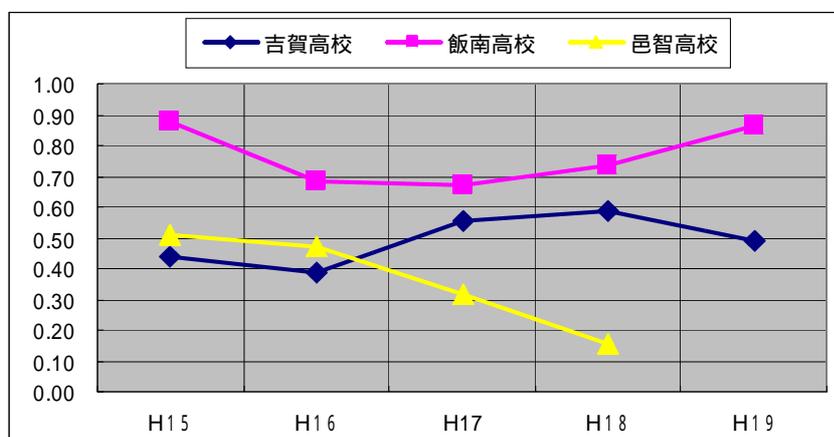
地域が一体となった中学校、高校への支援が行われた。

小中高一貫教育推進委員会、ゲストティーチャーバンク

(4) 連携中学校から連携高校への進学率の推移(H15～H19)

	H15	H16	H17	H18	H19	平均
吉賀高校	0.44	0.39	0.55	0.59	0.49	0.49
飯南高校	0.88	0.68	0.67	0.74	0.86	0.77
邑智高校	0.51	0.47	0.32	0.16	-	0.36

吉賀高校は、H17までは六日市、吉賀、蔵木3中学校からの入学率。H18からは柿木中学校も加えた入学率。



邑智高校は H17 に川本高校との統合が発表され、H19 に統合された。

(5)本県の中高一貫教育(=連携型)に対する評価

【積極的な評価】

中学校と高校が連携したTT授業や学力テスト等により、きめ細かな学習指導が行われた。
 中学校と高校の生徒の交流により、教育活動に活気が生まれ、相互の理解や関係が深まった。
 中学校と高校、あるいは連携中学校間の教師の相互理解が深まった。
 中学校と高校が連携した地域を主題とした学習により、地域に対する理解が深まった。
 地域が一体となった中学校、高校への支援が行われた。

【課題となる点】

連携中学校の生徒がすべて連携高校に進学するわけではないため、中高を一貫した教育課程の編成等が難しく、6年間を見通した効率的な指導ができない。
 連携高校に進学する生徒は学力検査がないことから、学習意欲の低下につながるなどの指摘がある。
 中学校と高校が離れているケースもあり、日常的な交流が難しい。
 連携中学校が複数あるため、すべての中学校と十分な交流ができない。

4. 全国的な公立中高一貫教育校の状況

(1)設置状況

平成19年の時点で公立中高一貫教育校を全く設置していないのは4県。

・神奈川、富山、長野、鳥取

(ただし、神奈川県はH21年度以降中等教育学校を設置の予定)

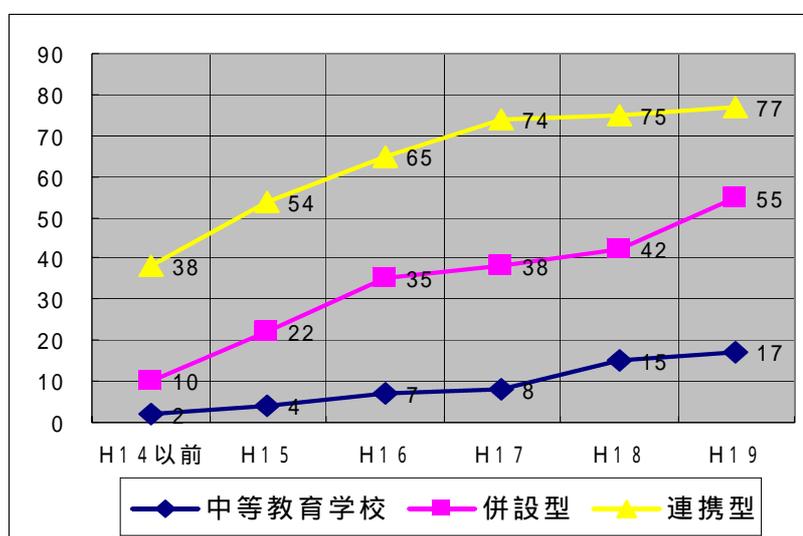
平成19年の時点で連携型だけを設置しているのは11府県。(島根県を含む)

・岩手、山形、茨城、福井、岐阜、愛知、三重、大阪、奈良、島根、熊本

(ただし、岩手、茨城、大阪はH20年度以降中等教育学校や併設型を設置の予定)

(2)年度別設置数

	中等 教育	併設 型	連携 型
H14以前	2	10	38
H15	2	12	16
H16	3	13	11
H17	1	3	9
H18	7	4	1
H19	2	13	2
合計	17	55	77



(3) 中等教育学校と併設型の全国的な傾向

おおむね生徒、保護者の人気は高く、中学校選抜の志願倍率は平均で4倍程度。都市部では10倍以上になる学校もある。(平成19年度入試)

(例)さいたま市立浦和中学校(併設) 25倍

千葉県立稲毛高校併設中学校(併設) 20倍

地方の小都市にある学校で募集定員を満たしていないところがある。(平成19年度入試)

(例)新潟県立津南中等教育学校 = 0.8倍 (中魚沼郡津南町)

香川県立高瀬のぞみが丘中学校(併設) = 0.8倍 (香川県三豊市)

5. 今後の方向

今後、中高一貫教育を導入するとすれば、以下のようなことについて十分検討するとともに、中高一貫教育について、県民や地域住民の理解を得ていく必要がある。

(1) 中等教育学校や併設型の場合

どのような設置目的(育てたい生徒像)が考えられるか。

< 例 >

・宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校 (宮崎県教育委員会 HP)

「恵まれた自然環境のもと、様々な体験学習や全寮制を生かし、思考力、創造力、社会性等の育成を図る教育活動を実施します」

・宮崎県立宮崎西中・高等学校 (宮崎県教育委員会 HP)

「都市部の教育資源を活用するとともに理系分野に重点を置いた特色ある教育活動を実施します」

・千葉県立千葉中・高等学校 (学校紹介リーフレット)

「千葉から、日本でそして世界で活躍する心豊かな次代のリーダーの育成」

設置する地域や学校の要件をどのように考えるか

・生徒数が比較的多く、中高一貫校以外の選択肢がある地域かどうか。

・既存の施設の活用が可能かどうか。

小中学校への影響をどのように考えるか

・受験競争の低年齢化につながらないか。

・既存の中学校の活力をそくことはないか。

(2) 連携型の場合

地域や地元中学校に理解が得られており、中・高・地域の連携により、地域の教育が活性化することが期待できるか。